

令和二年度

滝川第二中学校 入学考査 問題

C日程

国語

(五十分・百五十点)

注意事項

- 1 問題は1ページから12ページまであります。
- 2 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 3 「開始」の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 4 考査番号と氏名を、解答用紙と問題冊子の表紙に正しく記入しなさい。
- 5 解答用紙の※印の欄には記入してはいけません。
- 6 計算機能付き腕時計・携帯電話の持ち込みは禁止です。
- 7 「終了」の合図で鉛筆を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

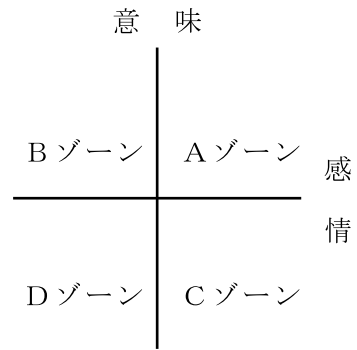
考査番号	氏名

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指示された字数には、句読点その他の符号もそれぞれ一字としてふくみます。)

- ① コミュニケーションという言葉は、現代日本にあふれている。① コミュニケーション力が重要だという。※認識は、※とみに高まっている。プライベートな人間関係でも仕事でも、② コミュニケーション力の【 】からトラブルを招くことが多い。仕事に就く力として第一にあげられるのも、コミュニケーション力である。③ コミュニケーションが上手くできない人間とはつきあいたくない、一緒に仕事をしたくない、というのは一般的な感情だろう。
- ② では、コミュニケーションとは何か。それは、※端的に言って、意味や感情をやりとりする行為である。④ 一方通行で情報が流れるだけでは、コミュニケーションとは呼ばない。テレビのニュースを見ている行為をコミュニケーションとは言わないだろう。やりとりする相互性があるからこそコミュニケーションといえる。
- ③ やりとりするのは、主に意味と感情だ。情報伝達⇨コミュニケーション、というわけではない。情報を伝達するだけではな

く、感情を伝え合い分かち合うこともまた⑤ コミュニケーションの重要な役割である。何かトラブルが起きたときに、「コミュニケーションを事前に十分とるべきであった」という言葉がよく使われる。一つには、細やかな状況説明をし、前提となる事柄について共通認識をたくさんつくっておくべきであったという意味である。もう一つは、情報のやりとりだけではなく、感情的にも共感できる部分を増やし、少々の行き違いがあってもそれを修復できるだけの信頼関係をコミュニケーションによって築いておくべきであった、ということである。

- ④ 意味と感情——この二つの要素をつかまえておけば、コミュニケーションの中心を外すことはない。情報という言葉は、感情の次元をあまり含んでいない言葉だ。情報伝達としてのみコミュニケーションを捉えると、肝心の感情理解がおろそかになる。人と人の関係を心地よく濃密にしていけることが、コミュニケーションの大きなねらいの一つだ。したがって感情をお互いに理解することを抜きにすると、トラブルのもとになる。
- ⑤ 仕事上のやりとりで、一見、情報だけを交換しているように見えるときがある。そういった状況でも、感情面に気を配ってコミュニケーションしている人とそうでない人とは、仕事の効率



【図1】

や出来・不出来に違いが出る。人間は感情で動くものだ。情報交換をしているときでも、同時に感情面での信頼関係を培うことのできる人は、仕事がスムーズにいき、ミスもカバーしやすい。トラブルが修復不可能にまでなるときには、

必ずと言っていいほど感情の行き違いがある。コミュニケーション力とは、意味を的確につかみ、感情を理解し合う力のことである。

⑥ コミュニケーションとは何かを理解しやすくするために、シンプルに座標軸（図1参照）で考えてみよう（図1参照）。X軸として「感情」、Y軸として「意味」をとる。意味と感情の両方をやりとりできている **I** はコミュニケーション良好ゾーンである。それとは **※** 対照的な **II** は、意味も感情もやりとりできていないコミュニケーション不全ゾーンである。 **A**、戦争状態というの、この **II** に踏み込んでいるときだ。お互いの意思を聞き合い、相互に調整するということを **※** 放棄した状態である。感情的にも、憎しみだけで向き合っていて、やりとりはな

い。コミュニケーションへの意志を完全に失った状態が、絶交状態、戦争状態である。

⑦ **III** は、感情はやりとりされていかないが、情報は交換されているゾーンである。しっかりと意味を共感し合う必要のある場面がここに当たる。仕事の場面では、しっかりと意味のやりとりが、何よりも大事だ。意味を取り違えれば、どんな仕事でもトラブルが起きる。顧客が要求している事柄をつかまえることに失敗すれば、当然トラブルになる。たとえばコンビニで商品を買うときは単純なので、**B** にこやかな笑顔がプラスポイントにもなる。**C**、家を建てるときや、仕事上の契約や営業など厳しい場面では、少しの「意味」の取り違えが深刻なもめ事につながるが頻繁にある。そのような事態をあらかじめ防ぎ、**D** 修復するためにコミュニケーション力が必要となる。どこがずれているのか、ということに敏感になることが、コミュニケーション力向上の第一歩である。

⑧ 自分は、相手が伝えようとしている「意味」をしっかりと受け取っているのか。こうした問いを常に自分に投げかけていると、失敗が少ない。⑥ この失敗を防ぐためには、自分で相手の言っている意味を再生して確認するのが最上の方法である。

「おっしやられてるのは、……ということですね」と確認してみよう。そうすることで、意味のズレをはっきりとさせることができる。意味がずれることが問題なのではない。ずれていることに気づく感覚が大事なのである。意味のズレを微妙に修正していくプロセスを共に踏むことで、信頼関係は強まっていく。

⑨ 座標軸の **IV** は、感情をやりとりするコミュニケーションのゾーンである。これは、^⑦ 恋人同士や **【** のような関係において重要なゾーンである。恋人同士では、何気ないことでも笑いあえる。端から見ていけば、何の意味もないと思えるような会話でも、当人たちにとっては最高のコミュニケーションになっているということがある。喫茶店で隣り合わせたカップルがどうでもいい話題で盛り上がっているのを聞いていると、ばかばかしい気持ちになる。それは会話に大した意味がなく、感情だけがやりとりされているからだ。恋人同士という関係においては、意味を常に生産していくような関係が求められているのではなく、感情を確認しあい強固にしていくことが重要なのである。

⑩ 実はこの **IV** は仕事上の関係でも意識的に使われることがよくある。初めて一緒に仕事をするようになった関係では、食事を共にするケースが多い。情報のやりとりだけならば、

III で事足りる。会社の会議室で十分に意思確認はできる。それで仕事に [※] 支障を来すことはない。一見無駄なようだが、ここで感情がやりとりされるのである。食事を共にし、お酒を飲みリラックスすることで、会議の時には出なかつた人間性が出てくる。会議の時には効率よく意味を交換しようとするために緊張感が生まれる。それを解きほぐす役割が食事を共にすることだ。「[※] シンポジウム」のもとになっているギリシャ語の「シユンポシオン」は饗宴という意味だ。共に食事をすることで分かち合う。分かち合われるのは意味と感情である。
(齋藤 孝『コミュニケーション力』より。なお、作問の都合上、一部改変してあります。)

注 認識：物事をはっきりと見分け、判断すること。

とみに：急に。にわか。

端的に：はっきりしているさま。明確にそれとわかるさま。

対照的：正反対のさま。

放棄：投げうち捨てること。

支障を来す：差しさわりのある状態になること。

シンポジウム：一つの問題について、数人の人が意見を発

表し、それについての聴衆の質問に答える形で行われる討論会のこと。

問一 —— 線部①「コミュニケーション力」とあるが、コミュニケーション力とは何かを本文中から十五字以上二十字以内で書きぬきなさい。

問二 —— 線部②「コミュニケーション力の【 】からトラブルを招く」とあるが、空欄に入る最も適当な言葉を次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 欠員 イ 欠点 ウ 欠礼
エ 欠如 オ 欠陥

問三 —— 線部③「コミュニケーションが上手くできない人間とはつきあいたくない、一緒に仕事をしたくない」とあるが、筆者はどのような人を一緒に仕事をするといい人と考えているのか、「() 人」にあてはまる形で、本文中から三十五字以内で探し、最初と最後の五字を書きぬきなさい。

問四 —— 線部④「二方通行」とあるが、これとほぼ逆の意味で使われている言葉を、これより後の本文中から三字で書きぬきなさい。

問五 —— 線部⑤「コミュニケーション」とあるが、コミュニケーションによって手に入るものは何であると作者は考えているか。本文中から三つ、それぞれ四字で書きぬきなさい。

問六 本文中の空欄Ⅰ～Ⅳに入る【図1】におけるゾーンを、次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア Aゾーン イ Bゾーン ウ Cゾーン
エ Dゾーン

問七 本文中の空欄A～Dに入る言葉を、次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、それぞれ一回しか使えません。

- ア むしろ イ あるいは ウ たとえば
エ しかし オ そして

問八 ——線部⑥「この失敗」とあるが、失敗の内容について述べられた箇所を本文中から三十字以内で探し、最初と最後の五字を書きぬきなさい。

問九 ——線部⑦「恋人同士や【 】のような関係において」とあるが、空欄に入る最も適当な言葉を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 家族 イ 友人 ウ 知人 エ 師弟

問十 この文章からは、次の一文がぬけ落ちている。どこに入れるのが適当か。入るべき場所を⑧以降で探し、その直後の五字を書きぬきなさい。

しかし、一般的にはそのあとで、一緒に食事をすることが多い。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指示された字数には、句読点その他の符号もそれぞれ一字としてふくみます。)

四月は、はじまりの月。そう感じるのは、学校という社会に、自分が身を置いているからだと思っていた。

小学校、中学校、高校。浪人の期間もなく大学に入り、卒業してすぐの四月に、今度は教員になった。二十数年間、学校の暦につきさどられていた。その暦に合わせて、時間が体の中を流れていたわけである。切れ目なく。

学校を離れて一年がたち、はじめて迎える春の訪れ。そしてやっぱり、けれどやっぱり、四月は、はじまりの月だなあと思う。

それは何故？ それは――。

若草色のせいなのだ、きっと。

芽を出したばかりの草のあの緑。① 未完成の緑と呼びたいような、初々しい色。それが世界をふちどっている。② 自然の暦でも四月は、はじまりの月なのだ。

若草色を見ると「これから」という言葉が心に浮かんでくる。これから、という言葉に続くもので、満ち満ちている草の緑

たち。

これから、季節を知る。

夏の陽ざしも、^③秋の台風も、冬の雪も、すべて未知のもの。けれどそれらは、確実にやってくる。生きとし生けるものに、恵みとして、試練として、めぐりくる季節。去年を知らない若草たちは、こわいもの知らずの大らかさで風にそよぎながら、静かに時の移りを待っている。

これから、伸びてゆく。

太陽の光をたっぷり浴びて、大地から水をうんと吸いあげて、大空に向かって背のびする。葉の色も次第に濃くなって、落ちついた大人の緑に、やがて変わるだろう。^④いつまでも同じ色にとどまっていられないのが、若草色の魅力でもある。

※^{かさね}襲の色目で「若草」といえば、表は薄青、裏は濃い青（青と緑も、^⑤内側には【深い緑を秘めている。若草は、変化を内包している色なのだ。

これから、花を咲かせる。

次の世代の若草のために、新しい生命を宿す実りの時間。その実りのための、まぶしい開花。和歌の世界では「若草の」という

語は、「つま」にかかる^⑥枕詞である。

なめらかな肌だったつけ若草の妻ときめてたかもしれぬ掌は

佐佐木幸綱

愛しい女性の瑞々しい肌と、若草のイメージがぴったり重なって、枕詞が生き生きと作用している一首だ。「若草の」という言葉の冠をかぶせられて、妻という語が一段と輝く。そこには自ずと、花へつながるイメージが、一つの要素としてあつただろう。

春の風に身をゆすりながら、若草たちがささやいている。

さあこれから、さあこれから、さあこれから。

^⑦そのささやきが光の粒になって、風に乗って自由自在。世界のあちこちに散らばって、みんなみんな^⑧【色に塗り変える。

その光の粒は、新学期の教室にも、たくさんやって来ていた。たとえば、角のまだとんがった教科書。ぴーんとそろった教科書のふちは、若草色に輝いているようだった。きちんと並んだ机の列にも、同じように光が宿っていた。

さあこれから、さあこれから、さあこれから。

四月になると胸いっぱい広がってくるあの言葉は、若草から運ばれてきたエネルギーだったのだな、と思う。

四月は、新しい出会いに満ちた、始まりの月だった。慌ただしさも一段落してほっとひと息つく。ふっと我に返る。何となく空を見る。

最近、^⑨五月病は、学生だけのものではないそうだ。新入社員にも、新婚家庭の主婦にも、春から単身赴任のお父さんにも、広がっている。

真夏の太陽をともなつた空や、秋のいわし雲をともなつた空とは違う。さわやかさの中にも、どこか物憂い感じを漂わせる五月の空。ウキウキの四月は過ぎ、^⑩入りはそこまできている。

不來方のお城のあとの草に臥す

空に吸はれし

十五のころ

数日前、初めて盛岡へ行った。岩手山、北上川……。自然と口をついて出てくるのは、やはり石川啄木の短歌である。彼の通った盛岡中学へも足を延ばした。グラウンドには野球部員の声が響きわたっていた。その時ふと思いついたのが、右の一首である。

不來方は盛岡の旧名。啄木は決して優等生タイプではなかった。教師にもかなり反発したらしい。啄木の真似をして空を見あげながら「……十五のころ」とつぶやいてみると、ある確信が、私の心に生まれた。

^⑪この空は、五月の空だ。どこに書いてあるわけではないけれど、そうに違いない。^⑫青春時代のモヤモヤした心を、吸いとつてくれる空。言葉にできない心のウツウツを、吸いとつてくれる空。

今年もまた、たくさんの人たちの心を、吸いとつているだろうか、五月の空。もしかしたらそういった心が吸いとられて、あの空の色を生み出しているのかもしれない。

何もかも考えこんでいるような五月、裾濃のオレンジジュース

私自身は、見あげるのではなく、ややうつむき加減にジュースを眺めながら、こんな歌を作ったことがある。「裾濃」というのは、衣服の染色の方法で、同じ色で上のほうを薄く、下のほうを次第に濃くしていくやり方である。

考えごとをしているうちに、^⑬ジュースの成分が【】してしまつた。まるで自分の心のように。まるで五月の気分のように。

^⑭啄木のほうが【】だぞ、と思う。五月病になつたら喫茶店で思い悩んでなんかいないで、草の上に寝ころぼう。心を空に投げ出そう。

だつてそのために、五月の空はあるのだから。だつてそのために、^⑮五月【】という言葉も、定着したのだから。

(俵 万智『かすみ草のおねえさん』より。なお、作問の都合上、一部改変してあります。)

注 襲の色目：平安時代にはじまつた、女性の衣装の表裏の色彩や重ね着の配色美。その色彩調和は、常に季節感に結びついており、主として四季の草花自然の色を写した。

問一 —— 線部①「未完成の緑」とあるが、作者が色の変化に着目する中でそう思う理由となつている部分を、本文中から一文で探し、その最初の五字を書きぬきなさい。

問二 —— 線部②「自然の暦」とあるが、これと対照的な意味を表す言葉を、本文中から書きぬきなさい。

問三 —— 線部③「秋の台風も、冬の雪も」とあるが、これを言い換えた言葉を、本文中から二字で書きぬきなさい。

問四 —— 線部④「いつまでも同じ色にとどまっていられない」とあるが、この言葉とほぼ同様の内容を表す言葉を、これ以後の本文中から十字以内で書きぬきなさい。

問五 —— 線部⑤「内側には【】深い緑を秘めている」とあるが、空欄に入る最も適当な言葉を次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 若い イ たくましい ウ 未知の
エ 大人の オ 静かな

問六 ——線部⑥「枕詞」とあるが、枕詞とは、和歌に用いられる技法の一つで、特定の語句の前に置いて、この語句を修飾したり、語調を整えたりする言葉である。修飾する語句は意味関係や音声関係で結びついているものが多い。では、「山」の前に置く枕詞として正しいものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 垂乳根たらちねの イ 足引きあしひきの ウ 白妙しろたえの
エ 草枕くさまくし オ 海神わたづみの

問七 ——線部⑦「そのささやき」とあるが、これを筆者はどのようなものととらえているか。本文中から十五字以内で書きぬきなさい。

問八 ——線部⑧「色に塗り変える」とあるが、空欄に入る最も適当な言葉を、本文中からひらがな五字で書きぬきなさい。

問九 ——線部⑨「五月病」とあるが、その意味として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 四月に別れた友人や家族が、五月あたりから恋しくなり仕事が手に付かない症状。

イ 冬の間にも痛めた関節や筋肉が、五月あたりから痛み出す症状。

ウ 四月の歓迎会の多さが原因で、五月あたりに起きる内臓疾患。

エ 四月の張り切りすぎが原因で、五月あたりに起きる肉体的疲労。

オ 新しい環境に適應できないことが原因で、五月あたりに起きる精神的な症状。

問十 ——線部⑩「入りはそこまできて」にあるが、空欄に入る適当な言葉を漢字二字で答えなさい。

問十一 ——線部⑪「この空は、五月の空だ」とあるが、「この空」とはどのような空か。簡潔に説明しなさい。

問十二 —— 線部⑫ 「青春時代のモヤモヤした心を、吸いとつてくれる空。言葉にできない心のウツウツを、吸いとつてくれる空。」とあるが、こうした結果、筆者は五月の空がどのようなものになっていると考えているか。「() ()」もの」にあてはまる形で、本文中から十字以内で書きぬきなさい。

問十三 —— 線部⑬ 「ジュースの成分が【 】してしまった」とあるが、空欄に入る最も適当な言葉を次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 反転 イ 腐敗ふはい ウ 蒸発 エ 変化 オ 沈殿ちんでん

問十四 —— 線部⑭ 「啄木のほうが【 】だぞ」とあるが、空欄に入る最も適当な言葉を次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 衝動的しょうどうてき イ 外交的 ウ 健康的
エ 内省的 オ 急進的

問十五 —— 線部⑮ 「五月【 】」とあるが、空欄に適当な言葉を二字で入れなさい。

三 次の言葉に関する問いに答えなさい。

問一 次のことわざと同じ意味の言葉を、後のア～コから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 弱り目にたたり目
(2) 帯に短したすきに長し
(3) 清水きよみずの舞台ぶたいから飛び降りる

ア	必然	イ	慎重 <small>しんちょう</small>	ウ	不運
エ	大敗	オ	個性	カ	突然 <small>とつぜん</small>
キ	不完全	ク	苦学	ケ	覚悟 <small>かくご</small>
コ	幸運				

問二 次の意味の故事成語を、後のア～コから選び、それぞれ記

号で答えなさい。

- (1) 仲間で努力して向上をはかる。
- (2) 人の幸不幸は、事前に予知はできない。
- (3) 物事をりっぱに完成させるための、最後の仕上げを忘れること。
- (4) かたきをうつために苦勞に耐えること。

ア	玉石混淆 <small>ぎんごう</small>	イ	杞憂 <small>きゆう</small>	ウ	虎の威を借る狐 <small>きつね</small>
エ	呉越同舟 <small>ごえつどうしゆう</small>	オ	塞翁が馬 <small>さいおうがうま</small>	カ	画竜点睛を欠く <small>かりょうてんせいをかけなく</small>
キ	臥薪嘗胆 <small>がしんしょうたん</small>	ク	螢雪の功 <small>けいせつのかう</small>	ケ	切磋琢磨 <small>せつさたくま</small>
コ	背水の陣 <small>せいすいのじん</small>				

四 次の語句に関する問いに答えなさい。

問一 次の熟語が対義語の関係になるように、後から選び（ ）

内に適当な漢字一字を入れなさい。

- | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|-----|---|-----|--------------------------|---|-----|-----|
| (1) 敏感 | ⇕ | () | 感 | (2) | 上昇 <small>じやうしやう</small> | ⇕ | 下 | () |
| (3) 及第 <small>きゆうだい</small> | ⇕ | () | 第 | (4) | 必然 | ⇕ | () | 然 |

次	偶
流	向
降	銳
鈍	落

問二 次の熟語の類義語を後の漢字を使って二字で書きなさい。

- (1) 道徳
- (2) 了解
- (3) 落胆
- (4) 方法

倫	納
望	手
秩	段
防	
失	現
得	御
整	然
理	

五 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- (1) 不朽の名作を読む。
- (2) 左右対称だ。
- (3) 為替が大きく変動する。
- (4) 足袋をはいて行く。
- (5) 道に砂利をまく。
- (6) 月末にケツサイする。
- (7) ゼットアイに忘れない。
- (8) ケイカイな音楽が流れる。
- (9) イベントをキカクする。
- (10) 想像のヨチもない。

